

令和6年度 学校推薦型選抜 小論文(文学科 英語英文学専攻) 解答例

問1 (30点)

【採点のポイント】

- ・ 下線部(ア)の指す内容を正しく説明しているか。

【解答例】

生徒たちは、文を言い終わらないうちに間違いを直されたり、ライティングの課題が赤字の修正だらけで返却されたり、言ったり書いたりした内容ではなく、形式のみをやり直しさせられたこと。

問2 (70点)

【採点のポイント】

- ・ 本文の内容が正確に把握されているか。
- ・ 自分の考えを具体的に述べているか。
- ・ 文章を論理的に構成しているか。
- ・ 高校で習得する程度の語彙力、および日本語表現能力があるか。
- ・ 420～480字で書いているか。

【解答例】

「間違いは良くないが、全くふつうのことである」という筆者の意見に、私は勇気付けられる。筆者が教える英語の授業で、間違いを恐れるあまり押し黙ってしまう生徒がいると書かれていたが、私も高校の英会話の授業で同様の経験がある。外国人教師に発言を促された時、例えば、動詞や名詞の語尾変化について考え始めてしまい、発話の機会を逃したことが何度もある。もし間違いを恐れずに発言していたら、教師とのやりとりの中で自分の理解が不十分な箇所に気づいたりするなど、何か新しいことが学べたかもしれない。このように間違いを通して学ぶというのは、子どもが母語を学ぶ過程で実行していることだ。私は親戚の幼児が間違いを気にせずに拙い日本語を話しているのを見たことがある。大人はそれに対して笑顔で言い直したり、返事をしたりするが、子どもはそこから新しいことを学んでいるのだろう。外国語以外にも、私にはこれからたくさんの「初めて」があると思う。間違いを先生に注意されるのを恐れるのではなく、3歳児の無邪気さをもって取り組むようにしたい。

(450字)